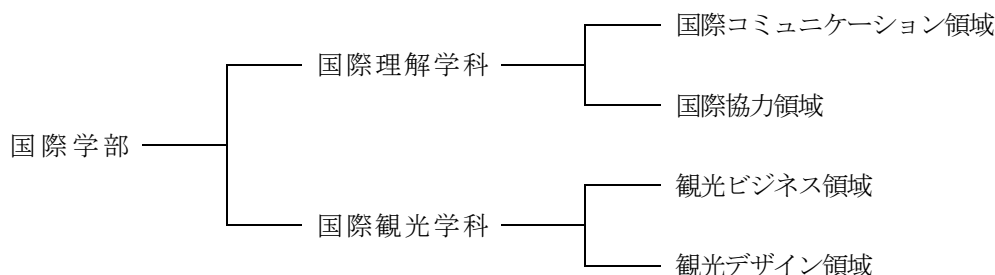


国際学部の履修について

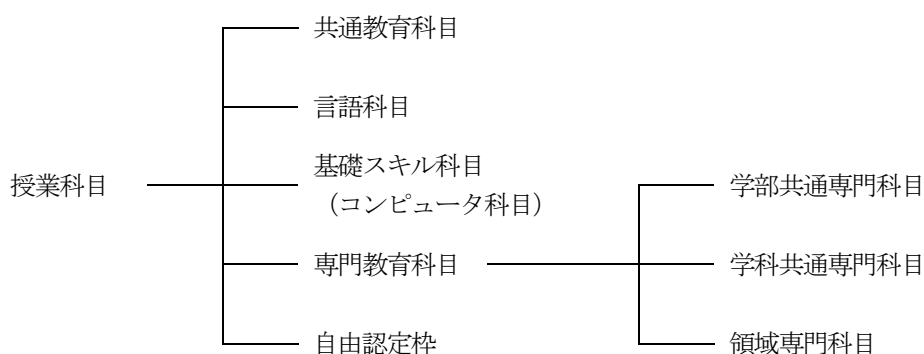
1. 学部の構成

国際学部は以下のように構成されています。皆さんはいずれかの領域に所属し、それに応じた単位の修得を目指してください。なお、所属領域の決定は1年次春学期（7月予定）に行います。



2. 授業科目の区分と卒業に必要な単位数

国際学部の授業科目は、共通教育科目、言語科目、基礎スキル科目（コンピュータ科目）、専門教育科目（学部共通専門科目、学科共通専門科目、領域専門科目）および自由認定枠に区分され、それぞれの区分で修得（科目を履修し、単位を取得すること）する単位数が学則によって定められています。そしてさらに、区分ごとで規定があり、それに従って単位を修得すれば、卒業の要件を満たすこととなります。



卒業に必要な単位数は以下のとおりです。（表記されている数字以上の単位を修得することが必要です。）

共通教育				言語			留学生		基礎スキル	自由認定枠	専門教育							合計		
											学部共通専門				学科共通専門				領域専門	
I	II	III	IV	必修	選択必修	選択	必修	選択	必修	必修	選択必修				必修	選択必修		選択		
2				10	2	8	10	10	2	14	4	I	II	III	IV	14	I	II	24	
8			8									4	4	4	4		2	8		2
22																				124

（注1）「自由認定枠」の14単位は、科目区分ごとの卒業に必要な単位数に算定される科目の他に修得しなければなりません。

詳細は「8. 自由認定枠」を確認してください。

（注2）担当教員が違っていても、同一名称の科目を重複して履修することはできません。

（注3）一度単位を修得した科目は、再び履修することはできません。

3. 共通教育科目

共通教育科目は皆さんが民主的市民社会を担うにふさわしい基礎的教養を育成するために情報学部・国際学部・経営学部に通所で置かれている科目で、以下の3つの目標を掲げています。

1. 現代社会を、過去からの人類の広い意味での文化の継承と革新という視点で見据えながら、グローバル/ローカル両面からとらえ、現代社会と自分自身の関わり方について考えることができる。
2. 持続可能な民主的市民社会につなげていくための現代的課題を把握し、問題点を発見し、その解決に意欲を持ち、解決する能力を培うことができる。
3. 問題解決に必要な具体的汎用能力を身につけることができる。

共通教育科目は以下の4つの科目群から成り立っており、それぞれで最低修得する単位数が決められています。また、総計では22単位以上の修得が必要となります。

I：キャリア形成基礎科目

キャリア形成のための基礎的素養を培う科目として「キャリア形成基礎」が置かれています。

II：学びの基礎科目

大学で学ぶにあたって、これまでの高等学校での学習の中で習得済みであることが期待されているものの、不十分なまま過ぎてしまった内容について、大学の初期の学習段階で補充するための科目群。

III：主として人間愛を育む科目

建学の精神「人間愛」を育む観点から、幅広い教養を培うための科目群。（一部は教職課程の必修科目群。）

IV：主として社会的事象等に対する認識や態度を養う科目

社会的事象等に対する認識や態度を養い、各分野における課題を発見し、解決に向けて見通しを持ち、課題解決意欲を高めようとする科目群。

*各科目群の1科目の単位数は2単位です。

*Iの「キャリア形成基礎」は必修科目です。

*IIとIIIの科目群を合わせた科目の中から、卒業までに最低8単位以上の修得が必要です。

*IVの科目群の科目の中から、卒業までに最低8単位以上の修得が必要です。

群	科目	単位	開講セメスター				卒業要件単位
			1	2	3	4	
			1年次		2年次		
I	キャリア形成基礎	2	○	○			2単位必修
II	日本語表現基礎	2	○	○			II・III群で8単位以上
	数学基礎	2	○	○			
	自然科学基礎	2	○	○			
	近現代史基礎	2	○	○			
	地理学基礎	2	○	○			
III	哲学 ★	2	○	○			
	倫理学 ★	2	○	○			
	文化人類学	2	○	○			
	日本国憲法 ※	2	○	○			
	論理学	2	○	○			
	音楽	2	○	○			
	文学	2	○	○			
	美術	2	○	○			
	人間関係論	2	○	○			
	心理学 ★	2	○	○			
	スポーツ科学	2	○	○			
	スポーツ・健康演習 ※	2	○	○			
	総合科目 A*	2	(○)	(○)			
総合科目 B*	2	(○)	(○)				
IV	社会学入門	2		○	○		IV群で8単位以上
	経営学入門	2		○	○		
	経済学入門	2		○	○		
	法学入門	2		○	○		
	政治学入門	2		○	○		
	宗教学入門 ★	2		○	○		
	情報社会論	2		○	○		
	情報倫理とモラル	2		○	○		
	メディア論	2		○	○		
	数理思考の活かし方	2		○	○		
	技術と人間	2		○	○		
	生態系と人間	2		○	○		
	生命科学	2		○	○		
	現代社会のエネルギー論	2		○	○		
	現代社会のジェンダー論	2		○	○		
現代社会の栄養論	2		○	○			
合 計							22単位以上

- (注) 1. ※：教職課程必修科目
2. ★：教職課程「社会科・公民科」免許の「教科に関する専門的事項」（選択必修）
【詳しくは「教職課程履修のてびき」を参照してください】
3. 「総合科目 A」、「総合科目 B」は、必要に応じて開講します（非開講の年度もあり）。
4. 「スポーツ・健康演習」は屋外、屋内での活動を伴いますので、運動着、シューズ（屋内用、屋外用）を用意してください。屋内用シューズには、黄色い靴紐（売店で販売）をつけてください。
不明な点は教員控室（体育館内）に問い合わせてください。

4. 言語科目

国際学部の言語科目は、専門科目を学ぶうえで必要な言語の基礎を身につけるために開かれた科目です。必修 10 科目（10 単位・英語）のほか選択必修科目 2 単位および選択科目 8 単位から成っており、卒業要件を満たすためには、少なくとも総計で 20 単位を修得しなければなりません。ただし、留学生は日本語 5 科目（10 単位）のほかに必修言語科目（英語）、選択必修言語科目、選択言語科目から 10 単位を修得しなければなりません。また、帰国生については、日本語の習得状況に応じて、語学教育委員会および教務委員会において判断する場合があります。

言語科目については、科目により単位数や開講の編成が異なります（原則として週 1 回開講科目は 1 単位、週 2 回開講科目は 2 単位です）ので、履修スケジュール決定の際には注意してください。

また各種検定試験の合格者には申請により関連言語科目の単位が認定されます。（本書「履修のてびき」の規程編「国際学部言語科目履修に関する特別措置扱い要領」および別配布「時間割」を参照してください）。

なお、20 単位を超えて修得した単位は、自由認定枠に加算されます。

(1) 必修言語科目（英語）（10 単位）

CALL（101, 102, 103, 104）およびEIC（101, 102, 103, 104, 201, 301）10 科目（10 単位）をすべて修得しなければなりません。

区分	科目名	単位	開講セメスター					卒業要件単位
			1	2	3	4	5	
			1年次		2年次		3年次	
必修	CALL101	1	○					10
	CALL102	1	○					
	CALL103	1		○				
	CALL104	1		○				
	EIC101	1	○					
	EIC102	1	○					
	EIC103	1		○				
	EIC104	1		○				
	EIC201 ◆	1				○		
	EIC301 ◆	1					○	

(注) 1. CALL (Computer Assisted Language Learning) : コンピュータ機器を使用した演習科目

2. EIC (English for International Communication) : 4 技能を統合した、コミュニケーション能力向上のための演習科目

3. ◆ : 教職「英語」に関する科目

(2) 選択必修言語科目（2 単位）

「読む」、「書く」など日本語能力の向上を目的とした科目です。国際学部の学生（外国人留学生・帰国生のうち日本語の修得の必要のある学生を除く）は「日本語表現法Ⅰ」・「日本語表現法Ⅱ」あるいは「日本語表記の常識」、「日本事情」のいずれかを選択し、修得しなければなりません。

区分	科目名	単位	開講セメスター			卒業要件単位
			1	2	3	
			1年次		2年次	
選択必修	日本語表現法Ⅰ	1	○	○		2
	日本語表現法Ⅱ	1		○	○	
	日本語表記の常識	2	○	○		
	日本事情	2		○		

(注) 1. 「日本語表現法Ⅱ」の履修は、「日本語表現法Ⅰ」を修得していなければなりません。（順序性があります）

2. 「日本語表記の常識」については、漢字能力検定試験 2 級合格者に履修を免除する場合があります（本書「履修のてびき」の規程編「国際学部言語科目履修に関する特別措置扱い要領」および別配布「時間割」を参照してください）。

(3) 選択言語科目 (8 単位)

次の表に示すすべての科目の中から少なくとも8単位を修得しなければなりません(科目によって1単位のものと2単位のものがありますので、注意してください)。

なおドイツ語、スペイン語、フランス語、中国語、韓国語には順序性があり、原則として、Ⅰ、Ⅱ、Ⅲの順に履修していかなければなりません。

区分	科目名	単位	開講Semester				卒業要件単位
			1	2	3	4	
			1年次		2年次		
選択	CALL A	1	○	○			8
	CALL B	1	○	○			
	CALL C	1	○	○			
	E I C A	1	○	○			
	E I C B ◆	1	○	○			
	E I C C ◆	1	○	○			
	ESP A	1	○	○			
	ESP B	1	○	○			
	ESP C	1	○	○			
	ESP D ※	2			○		
	ESP E ※	2			○		
	ESP F	2			○		
	ドイツ語Ⅰ	2	○	○			
	ドイツ語Ⅱ	2		○	○		
	ドイツ語Ⅲ	2			○		
	スペイン語Ⅰ	2	○	○			
	スペイン語Ⅱ	2		○	○		
	スペイン語Ⅲ	2			○		
	フランス語Ⅰ	2	○	○			
	フランス語Ⅱ	2		○	○		
	フランス語Ⅲ	2			○		
	中国語Ⅰ	2	○	○			
	中国語Ⅱ	2		○	○		
	中国語Ⅲ	2			○		
	韓国語Ⅰ	2	○	○			
	韓国語Ⅱ	2		○	○		
韓国語Ⅲ	2			○			
世界の言語	2	○	○				

- (注) 1. E S P (English for Specific Purpose) : 専門科目に関連する英文の読解やプレゼンテーション、英語検定試験対策などを中心とした授業。
2. ※「ESP D」、「ESP E」は短期留学との並行科目で、短期留学参加学生は留学先校で別途履修、修得することになります。したがって、本学に開設される講座での履修、修得ができるのは短期留学に参加しない学生に限られます(ただし短期留学での未修得学生は再履修可)。
3. 「世界の言語」では、留学などで英語、ドイツ語、スペイン語、フランス語、中国語、韓国語以外の言語を習得した場合も単位認定します。(詳しくは教育支援課に相談して下さい)
4. ◆: 教職「英語」に関する科目

5. 言語科目（外国人留学生）

外国人留学生は、原則として日本語A～Eの5科目10単位を必ず修得しなければなりません。ほかに選択科目として10単位以上を、日本人学生のための必修言語科目（CALL101～104、EIC101～104、201、301）、選択必修言語科目、選択言語科目群の中から任意に履修し、修得してください。また、選択必修言語科目のうち「日本事情」（2単位・第2セメスター）は必ず履修するようにしてください。

なお、日本語をより幅広く学ぶためには「日本語表現法Ⅰ」および「日本語表現法Ⅱ」、あるいは「日本語表記の常識」のうち少なくとも一方を履修することを勧めます。

区分	科目名	単位	開講セメスター						卒業要件単位
			1	2	3	4	5	6	
			1年次		2年次		3年次		
必修	日本語A	2	○						10
	日本語B	2	○						
	日本語C	2		○					
	日本語D	2			○				
	日本語E	2				○			
選択	日本事情	2		○					10
	日本語表現法Ⅰ	1	○	○					
	日本語表現法Ⅱ	1		○	○				
	日本語表記の常識	2	○	○					
	卒論演習	1						○	
	CALL101～104、EIC101～104、201、301、CALL A～C、EIC A～C、ESP A～F、ドイツ語Ⅰ～Ⅲ、スペイン語Ⅰ～Ⅲ、フランス語Ⅰ～Ⅲ、中国語Ⅰ～Ⅲ、コリア語Ⅰ～Ⅲ、世界の言語								

(注) 1. 「日本語表現法Ⅱ」の履修は、「日本語表現法Ⅰ」を修得していなければできません。(順序性があります。)

2. ドイツ語、スペイン語、フランス語、中国語、コリア語は原則として、Ⅰ、Ⅱ、Ⅲの順で履修しなければなりません。(順序性があります。)

3. 母語の履修はできません。

6. 基礎スキル（コンピュータ科目）

コンピュータ科目は、大学での学習を進めるうえで必要なコンピュータに関わる初歩的な知識と技術を身につけることを目的として開講しています。必ず1科目2単位を修得しなければなりません。

区分	科目名	単位	開講セメスター		卒業要件単位
			1	2	
			1年次		
必修	コンピュータ基礎演習	2	○		2

7. 専門教育科目

(1) 学部共通専門科目

学部共通専門科目では「有為なる国際人」の育成を目指して、世界との「関わり、交わり、つながり」を通じた学習の中から、社会や自分自身を変えてゆくことができる力を養うために、必修科目「国際学入門」および以下の4つの群からなる共通専門科目（選択必修）を設けています。

- I群… 世界の諸地域を理解し、また実際に現地での研修などを進めるための地域研究科目群および委員会企画・主催の海外研修科目群。
- II群… 日本の諸様相を理解するための日本研究科目群。（一部の授業は英語を使用して行います。）
- III群… 社会と関わりを深め、社会人としての基礎的素養を培うキャリア形成支援育成のための科目群。
- IV群… 世界とのより良い「関わり、交わり、つながり」を目指す国際学のより発展的な研究と、学部アイデンティティを再確認し、考察を深めるための「国際学研究」群。

学部選択必修 I～III群ではそれぞれ4単位以上、IV群では2単位以上を修得しなければなりません。

区分	科目名	単位	開講セメスター						卒業要件単位
			1	2	3	4	5	6	
			1年次		2年次		3年次		
学部必修	国際学入門	4	○						4
学部選択必修	I群	地域研究A (ヨーロッパ) ◆	2			○			4
	地域研究B (中南米)	2			○				
	地域研究C (東アジア)	2			○				
	地域研究D (アフリカ)	2			○				
	地域研究E (アメリカ) ◆	2				○			
	地域研究F (南アジア)	2				○			
	地域研究G (東南アジア)	2				○			
	地域研究H (オセアニア) ◆	2				○			
	地域研究特論	4			○				
	海外研修A (アジア研修)	2			○				
	海外研修B (RM 研修)	2			○				
	海外研修C (HM 研修)	2				○			
	ボランティア実地演習	2		○					
	II群	現代日本の諸問題*	2		○			4	
	日本の伝統文化	2		○					
	日本の政治経済	2		○					
	日本の地理と歴史	2			○				
	日本の企業と社会	2			○				
	III群	キャリア形成A	2				○	4	
	社会人の基礎力演習	2				○			
インターンシップ	2				○				
キャリア形成B	2					○			
IV群	国際学研究A	2				○	2		
国際学研究B	2				○				
国際学研究C	2				○				
合 計									18

- (注) 1. 「地域研究特論」は短期留学参加者の単位認定用の科目で、講義形式での授業は行いません。
2. 「海外研修A～C」、「ボランティア実地演習」、「インターンシップ」は大学・学部が企画する海外研修プログラム参加者や学部委員会が所管する活動参加者を対象とした科目で、講義形式での授業は行いません。履修・修得のためには、それぞれの研修、活動に参加し、所定の課題を果たす必要があります。詳しくは本書の「その他、科目・課程と特記すべき点」および規程編における関連内規を参照してください。
3. * : 短期留学参加者必修科目
4. ◆ : 教職「英語」に関する科目

(2) 各学科・領域の内容とカリキュラム

(i) 国際理解学科のカリキュラム

・ 内容

国際理解学科には、①国際コミュニケーション領域（主に実践的なコミュニケーション能力を養成する）、②国際協力領域（主に国際的諸問題の理解や国際貢献への関心と能力を養成する）の2つの領域があります。皆さんはいずれかの領域を選択し所属することとなりますが、選択した領域の科目はもちろん、他の領域の科目も併せて履修することで、視野の広い国際人・地球市民に育っていった欲しいと思います。

なお、領域の選択は1年次の7月はじめに行う予定です。原則として、いったん選択した領域の変更は認められません。

・ カリキュラムについて

専門教育科目については、次に記した要件により66単位以上を修得しなければなりません。自由認定枠を使えば80単位まで修得できます。なお、*印については、下記の所定の単位数を超える部分について、自由認定枠での単位認定が出来ます。

a. 学部共通専門科目から18単位以上

必修科目「国際学入門」4単位

選択必修科目Ⅰ群より4単位以上（*）

選択必修科目Ⅱ群より4単位以上（*）

選択必修科目Ⅲ群より4単位以上（*）

選択必修科目Ⅳ群より2単位以上（*）

b. 学科共通専門科目（必修、選択必修）から24単位以上

必修科目14単位以上

選択必修科目Ⅰ群より8単位以上（*）

選択必修科目Ⅱ群より2単位以上（*）

c. 各領域専門科目から24単位以上（*）

(ii) 国際観光学科のカリキュラム

・ 内容

国際観光学科には、①観光ビジネス領域（主に観光産業を支える人材育成とその能力を養成する）、②観光デザイン領域（主に観光で地域社会の創造に貢献できる人材育成とその能力を養成する）の2つの領域があります。皆さんはいずれかの領域を選択し所属することとなりますが、選択した領域の科目はもちろん、他の領域の科目も併せて履修することで、視野の広い国際人・地球市民に育っていった欲しいと思います。

なお、領域の選択は1年次の7月はじめに行う予定です。原則として、いったん選択した領域の変更は認められません。

・ カリキュラムについて

専門教育科目については、次に記した要件により 66 単位以上を修得しなければなりません。自由認定枠を使えば 80 単位まで修得できます。なお、*印については、下記の所定の単位数を超える部分について、自由認定枠での単位認定が出来ます。

a. 学部共通専門科目から 18 単位以上

必修科目「国際学入門」4 単位

選択必修科目 I 群より 4 単位以上 (*)

選択必修科目 II 群より 4 単位以上 (*)

選択必修科目 III 群より 4 単位以上 (*)

選択必修科目 IV 群より 2 単位以上 (*)

b. 学科共通専門科目（必修、選択必修）から 24 単位以上

必修科目 14 単位以上

選択必修科目 I 群より 8 単位以上 (*)

選択必修科目 II 群より 2 単位以上 (*)

c. 各領域専門科目から 24 単位以上 (*)

8. 自由認定枠

科目区分ごとに必要とされる単位数を超えて修得した単位のほか、本学の他学部や他大学等で修得した単位を卒業に必要な単位として認定します。卒業に必要な単位数は 14 単位です。以下に具体的な場合を例示します。

(1) 共通教育科目

(2) 言語科目

(3) 学部共通専門科目（選択必修科目 I～IV 群）

(4) 学科共通専門科目（選択必修 I～II 群）

(5) 各領域専門教育科目

(6) 他学科・他領域の (4)、(5) の科目

(7) 他学部の専門教育科目（8 単位まで）

なお、自由認定枠の使い方については「新入生ゼミナール」、「基礎ゼミナール」、「専門ゼミナール I～IV」などの担当教員や教育支援課窓口にご相談してください。

【国際理解学科共通専門科目一覧】

区分	科目	単位	開講セメスター								卒業要件単位
			1	2	3	4	5	6	7	8	
			1年次		2年次		3年次		4年次		
学科必修	国際理解論	2		○							14
	新入生ゼミナール	2	○								
	基礎ゼミナール	2		○							
	専門ゼミナールⅠ	2					○				
	専門ゼミナールⅡ	2						○			
	専門ゼミナールⅢ	2							○		
	専門ゼミナールⅣ	2								○	
学科選択必修	Ⅰ群	国際理解とコミュニケーション ◆ (国際コミュニケーション論)	4		○						8
		国際理解と政治★ (現代国際政治論)	4			○					
		国際理解と文化 (異文化理解論)	4			○					
		国際理解と法 ★ (現代国際法)	4			○					
		国際理解と経済 ★ (現代世界経済論)	4				○				
		国際理解と環境 (地球環境論)	4				○				
	Ⅱ群	応用演習	2			○					2
		短期留学英語演習	2			○					
国際コミュニケーション領域選択	ジェンダーと国際社会 ◆	2						○		24	
	英語コミュニケーション論 ◆	2		○							
	異文化理解演習 ＊◆	2		○							
	イスラーム入門	2			○						
	キリスト教入門	2			○						
	キリスト教文化と社会	2				○					
	仏教・ヒンドゥ教入門	2					○				
	英語表現A ◆	2			○						
	英語表現B ◆	2			○						
	英語学概論 ◆	2				○					
	英語とメディア ◆	2						○			
	環境コミュニケーション論	2				○					
	通訳入門 ◆	2					○				
	翻訳入門 ◆	2						○			
	英語音声学 ◆	2				○					
	英語文学A ◆	2					○				
	英語文学B ◆	2						○			
	西洋思想と国際社会	2					○				
	東洋思想と国際社会	2						○			
社会言語学 ◆	2					○					

区分	科 目	単 位	開講セメスター								卒業要件単位
			1	2	3	4	5	6	7	8	
			1年次		2年次		3年次		4年次		
国際コミュニケーション領域選択	比較文学	2						○			24
	現代思想	2					○				
	国際化・情報化時代の社会学 ★	2						○			
	交流文化論A ▲	2		○							
	交流文化論B ▲	2			○						
	文化政策論 ▲	2			○						
	英語オーラル・コミュニケーション論 ◆	2				○					
	コミュニケーションのための英文法 ◆	2					○				
	日本ポップカルチャー論	2					○				
	インタープリテーション論I (理論)	2					○				
	インタープリテーション論II (応用演習)	2						○			
	美術史 ▲	2				○					
	特殊講義A	2				(○)					
	特殊講義B	2					(○)				
特殊講義C	2						(○)				
国際協力領域選択	日本経済論 ★	2			○						24
	国際機構論 ★	2			○						
	NPO・ボランティアの理論	2			○						
	法と行政A (法治国家の理念と仕組み) ★	2				○					
	開発教育論	2			○						
	外国史A ★	2				○					
	地理学 ★	2			○						
	日本史 ★	2				○					
	法と行政B (外国人と行政) ★	2					○				
	ソーシャルビジネス論	2					○				
	金融論	2				○					
	国際人権法	2				○					
	比較政治学 ★	2				○					
	外国史B ★	2					○				
	アジア太平洋経済論 ★	2					○				
	国際金融論 ★	2					○				
	市民の環境貢献	2						○			
	安全保障論	2					○				
	国際協力論 ★	2			○						
	開発と国際協力	2				○					
	紛争と国際協力	2				○					
	憲法	2			○						
	資源と国際協力	2				○					
	環境と国際協力	2			○						
観光と国際協力	2				○						
平和学	2			○							
開発経済学	2						○				

区分	科目	単位	開講セメスター								卒業要件単位
			1	2	3	4	5	6	7	8	
			1年次		2年次		3年次		4年次		
国際協力 領域選択	国際化・情報化時代の社会学★	2						○			24
	環境経済学	2						○			
	国際環境法	2						○			
	農村社会開発論	2					○				
	現代中国論	2						○			
	統計調査の基礎	2						○			
	国際協力実地演習	2				○					
	特殊講義D	2			(○)						
	特殊講義E	2					(○)				
	特殊講義F	2						(○)			

- (注) 1. ◆：教職「英語」に関する科目
2. ★：教職「社会」に関する科目
3. ▲：学芸員資格に関する科目
4. *：短期留学参加者必修科目
5. 「専門ゼミナールⅠ～Ⅳ」、「インタープリテーション論Ⅰ、Ⅱ」には順序性があり、Ⅰを修得しないとⅡを（Ⅱを修得しないとⅢを、Ⅲを修得しないとⅣを）履修できません。
6. 「国際理解と文化」、「短期留学英語演習」は短期留学参加者単位認定科目のため、学部では授業は起こりません。
7. 「異文化理解演習」は短期留学参加者の事前研修のために設けられた科目で、短期留学に参加しない学生は履修できません。
8. 「英語表現A」、「英語表現B」は短期留学参加者単位認定科目ですが、短期留学に参加しない学生用にも授業を開講します。
9. 「特殊講義A～F」は必要に応じて開講します（非開講の年度あり）。
10. 「国際協力実地演習」は学外での関連研修をふまえて単位認定する科目で、履修・修得のためには、当該の研修に参加し、所定の課題を果たすことが必要です。詳しくは担当教員に尋ねてください。

【国際観光学科共通専門科目一覧】

区分	科目	単位	開講Semester								卒業要件単位
			1	2	3	4	5	6	7	8	
			1年次		2年次		3年次		4年次		
学科必修	国際観光論	2		○							14
	新入生ゼミナール	2	○								
	基礎ゼミナール	2		○							
	専門ゼミナールⅠ	2					○				
	専門ゼミナールⅡ	2						○			
	専門ゼミナールⅢ	2							○		
	専門ゼミナールⅣ	2								○	
学科選択必修	Ⅰ群	国際観光とビジネス (ビジネス・マネジメント論)	4			○					8
		国際観光とマーケティング (マーケティング論)	4			○					
		国際観光とホスピタリティ (ホスピタリティ・マネジメント論)	4				○				
		国際観光と起業(起業論)	4			○					
		国際観光とデザイン (観光デザイン論)	4				○				
		国際観光と会計(財務・会計論)	4				○				
	Ⅱ群	応用演習	2			○					2
		短期留学英語演習	2			○					
	観光ビジネス領域選択	観光ビジネス論	2			○					24
		観光サービス	2			○					
		観光マーケティング論	2			○					
		流通論	2			○					
英語表現C		4			○						
プロジェクトマネジメント		2			○						
金融論		2				○					
消費社会論		2					○				
観光心理学		2				○					
ビジネス倫理		2					○				
トラベルビジネス論		2				○					
旅行法規		2					○				
トラベル実務		2						○			
消費者行動論		2				○					
広告論		2					○				
産業組織論		2				○					
ホスピタリティ人材開発		2					○				
エアラインビジネス論		2					○				
国際金融論		2					○				
エアラインサービス論		2						○			
統計調査の基礎	2						○				
交通事業論	2				○						
ホテル事業論	2				○						
ホテルサービス論	2					○					

区分	科目名	単位	開講セメスター								卒業要件単位
			1	2	3	4	5	6	7	8	
			1年次		2年次		3年次		4年次		
観光ビジネス領域選択	ホテルレストラン会計	2						○			24
	テーマパーク事業論	2				○					
	スポーツビジネス論	2					○				
	レジャー・スポーツ演習	2						○			
	プライダルマネジメント	2					○				
	観光ビジネスの経済	2					○				
	観光企業の競争戦略	2				○					
	観光ビジネスプロジェクト演習Ⅰ（理論）	2			○						
	観光ビジネスプロジェクト演習Ⅱ（応用演習）	2				○					
	専門インターンシップ事前研修	2					○				
	専門インターンシップⅠ	4						○			
	専門インターンシップⅡ	4						○			
	専門インターンシップⅢ	4						○			
	専門インターンシップⅣ	4						○			
	特殊講義G	2				(○)					
	特殊講義H	2					(○)				
特殊講義I	2						(○)				
観光デザイン領域選択	NPO・ボランティアの理論	2			○						24
	景観と風景のまちづくり	2					○				
	統計調査の基礎	2						○			
	英語表現C	4			○						
	地域開発とミュージアム	2					○				
	地域調査演習	2					○				
	観光と食文化	2						○			
	観光資源論	2				○					
	エコツーリズム論	2					○				
	観光社会学	2				○					
	地域のサステイナブル・デザイン論	2						○			
	インタープリテーション論Ⅰ（理論）	2					○				
	インタープリテーション論Ⅱ（応用演習）	2						○			
	飲食店企画論	2				○					
	現代都市論	2					○				
	観光と国際協力	2				○					
	地域プロジェクト演習Ⅰ（理論）	2			○						
	地域プロジェクト演習Ⅱ（応用演習）	2				○					
	生涯学習論 ▲	2			○						
	博物館展示論 ▲	2			○						
博物館教育論 ▲	2			○							
博物館情報・メディア論 ▲	2				○						
博物館資料保存論 ▲	2				○						

区分	科目名	単位	開講セメスター								卒業要件単位	
			1	2	3	4	5	6	7	8		
			1年次		2年次		3年次		4年次			
観光デザイン領域選択	交流文化論A ▲	2		○								24
	交流文化論B ▲	2			○							
	文化政策論 ▲	2			○							
	アート・マネジメント論 ▲	2					○					
	美術史 ▲	2				○						
	博物館実習 ▲	4						○				
	専門インターンシップ事前研修	2					○					
	専門インターンシップⅠ	4						○				
	専門インターンシップⅡ	4						○				
	専門インターンシップⅢ	4						○				
	専門インターンシップⅣ	4						○				
	特殊講義J	2			(○)							
	特殊講義K	2					(○)					
特殊講義L	2						(○)					

- (注) 1. ◆：教職「英語」に関する科目
2. ★：教職「社会」に関する科目
3. ▲：学芸員資格に関する科目
4. 「専門ゼミナールⅠ～Ⅳ」、「観光ビジネスプロジェクト演習Ⅰ～Ⅱ」、「インタープリテーション論Ⅰ、Ⅱ」、「地域プロジェクト演習Ⅰ～Ⅱ」、「専門インターンシップⅠ～Ⅳ」には順序性があり、Ⅰを修得しないとⅡを（Ⅱを修得しないとⅢを、Ⅲを修得しないとⅣを）履修できません。
5. 「短期留学英語演習」、「英語表現C」は短期留学参加者単位認定科目のため、学部では授業はおこないません。
6. 「専門インターンシップ事前研修」は専門インターンシップ参加者の事前研修のために設けられた科目で、専門インターンシップに参加しない学生は履修できません。
7. 「専門インターンシップ」は学外での関連研修をふまえて単位認定する科目で、履修・修得のためには、当該の研修に参加し、所定の課題を果たすことが必要です。詳しくは後ページの解説を熟読の上、担当教員に尋ねてください。
8. 「特殊講義G～L」は必要に応じて開講します（非開講の年度あり）。
9. 博物館学芸員資格を得るためには▲マークのある科目の修得が必要です。詳しくは後ページ解説を熟読の上、担当教員に尋ねてください。
10. 「レジャー・スポーツ演習」は学外での関連研修（活動）をふまえて単位認定する科目で、履修・修得のためには、当該の研修（活動）に参加し、所定の課題を果たすことが必要です。詳しくは担当教員に尋ねてください。

9. 国際学部の特徴的なカリキュラムの仕組みと関連する科目群

(紹介する内容には一部重複があります。)

(1) 初年次教育とそれ以降の適応教育、専門ゼミへの接続

国際学部では皆さんの入学後の生活や学習にスムーズに適応してもらおう一助として、入学時基礎学力の確認や仲間作り、さらにはアカデミック・スキルなどを身につけてもらうべく、「入学前教育」(一部学生対象)から始まる初年次教育を充実させ、その後の適応、専門研究への発展的学習をスムーズに進める仕組みを作っています。下記はその代表的な科目群です。「ゼミナール」系の科目群は少人数での学習が出来るように担当教員を決め(あるいは選択してもらい)、「全教員で全学部生を指導し、きめ細かく、面倒見の良い教育」を行えるように配慮しています。いずれも必修・選択必修科目ですので、できる限り配当セメスター内での修得を目指してください。

区分	科目名	単位	開講セメスター								備考	
			1	2	3	4	5	6	7	8		
			1年次		2年次		3年次		4年次			
学部必修	国際学入門	4	○									必修
理解学科/ 観光学科必修	新生ゼミナール	2	○									
	基礎ゼミナール	2		○								
理解学科/ 観光学科選択必修II群	応用演習	2			○							1科目(2単位)を選択必修
	短期留学英語演習 ※	2			○							
理解学科/ 観光学科必修	専門ゼミナールI	2						○				必修、順序性あり
	専門ゼミナールII	2						○				
	専門ゼミナールIII	2							○			
	専門ゼミナールIV	2								○		

注) ※短期留学参加者単位認定科目(本学部で授業は行わない。)

(2) 国際学部生としてのアイデンティティーを育成する

国際学部では「有為なる国際人の育成」という教育目標を実現するために、現代世界における「自身の立ち位置の検証」と「森羅万象の関わり/つながり/交わり」を迫る知的運動としての国際学の意義を理解してもらい、そこで得られた問題意識を専門的研究につなげていくために、学部アイデンティティーの「背骨」となる科目群を設けています。下記のものはその代表的なものです。いずれも必修・選択必修科目です。

区分	科目名	単位	開講セメスター						備考	
			1	2	3	4	5	6		
			1年次		2年次		3年次			
学部必修	国際学入門	4	○							必修
理解学科/ 観光学科必修	国際理解論	2		○						当該学科生必修
	国際観光論	2		○						
学部選択必修 IV群	国際学研究A*	2				○				3科目中、いずれか1科目(2単位)を選択必修
	国際学研究B*	2				○				
	国際学研究C*	2				○				

(注) *「国際学研究A」…「世界のつながり」をキーワードとし、主として異文化理解と多文化共生のあり方を考え、問題解決を志向する実践知の育成を目指す。

*「国際学研究B」…「世界の交わり」をキーワードとし、主として望ましい交流文化のあり方、多角的な世界他地域との交わり方をふまえた地域デザインのあり方を考え、問題解決を志向する実践知の育成を目指す。

*「国際学研究C」…「世界の関わり」をキーワードとし、主として社会科学アプローチに基づく世界構造の解析と理解、諸問題の考察を軸に、問題解決を志向する実践知の育成を目指す。

(3) 英語リテラシーの充実、英語スキルの向上

国際学部では外国語、特に英語を「コミュニケーションの一ツール」として使いこなすことができるよう、「読み、書き、話し、理解し、発信する」英語スキルを向上させ、専門研究に活用できることを目的に言語科目、専門教育科目に関連科目を配置しています。下記の科目はその代表的なものです（いずれも必修・選択必修科目です）。

なお、学部共通科目選択必修第Ⅱ群（日本理解群）では、一部を英語による講義にて行う予定です。

区分	科目名	単位	開講セメスター						備考
			1	2	3	4	5	6	
			1年次		2年次		3年次		
言語科目	E I C 1 0 1, 1 0 2	各1	○						10単位必修
	CALL 1 0 1, 1 0 2	各1	○						
	E I C 1 0 3, 1 0 4	各1		○					
	CALL 1 0 3, 1 0 4	各1		○					
	E I C 2 0 1	1				○			
	E I C 3 0 1	1					○		
両学科選択必修Ⅱ	応用演習	2			○			いずれか1科目（2単位）を選択必修	
	短期留学英語演習※	2			○				

(注) ※短期留学参加者単位認定科目

(4) キャリア教育、社会人基礎力育成教育

国際学部では皆さんの将来の自立支援、社会への参加準備として社会人基礎力を養い、人生観・職業観を育成支援するためのキャリア教育に関連する科目群を配置しています。以下はその代表的なものです（いずれも必修・選択必修科目です）。

区分	科目名	単位	開講セメスター						備考
			1	2	3	4	5	6	
			1年次		2年次		3年次		
共通教育科目	キャリア形成基礎	2	○	○					2単位必修
学部選択必修Ⅲ群	キャリア形成A*	2				○			Ⅲ群より4単位（2科目）選択必修 *社会人基礎力の養成を図る
	社会人の基礎力演習*	2				○			
	インターンシップ	2				○			
	キャリア形成B	2					○		

(5) 短期留学について

国際学部では異文化理解を深め、英語コミュニケーションスキルの向上のための集中的研修の機会として、第3セメスターに短期留学制度を設けており、オレゴン州立大学（米国オレゴン州）、モナシュカレッジ（オーストラリア・メルボルン）、プリンスオブソククラ大学（タイ・プーケット島）のいずれかにそれぞれ約12週間の研修を行います。参加者は留学先での履修結果に基づいて英語科目4単位分を含む18単位の修得ができます。（下記の表参照。）なお単位認定上での配慮として、国際理解学科の「英語表現A」（2単位）、「英語表現B」（2単位）に対応する科目として国際観光学科には「英語表現C」（4単位）を置き、学科領域選択科目として認定できるようにしています。また同プログラムの効果をいっそう図るために、事前研修科目として第2セメスターでは「現代日本の諸問題」、「異文化理解演習」（各2単位）の履修義務を課しています。参加を希望する学生は十分に履修計画を立て、単位の修得に支障のないよう考慮してください。

なお、参加希望の学生の皆さんは国際交流委員会が実施するオリエンテーションや事前・事後指導に参加しなければなりません。また、留学先については人数に上限があり、必ずしも希望どおりに選択できない場合があります。詳しくは本書の規程編「国際学部短期留学関連科目履修と単位認定に関する取り扱い内規」を参照してください。

区分	科目名	単位	開講Semester			備考
			1	2	3	
			1年次		2年次	
学部選択必修Ⅰ群	地域研究特論	4			○	短期留学対応科目
言語科目	現代日本の諸問題 *	2		○		*短期留学参加学生履修必須 **短期留学認定科目との並行科目。
	ESP D **	2			○	
	ESP E **	2			○	
両学科選択必修Ⅱ群	短期留学英語演習	2			○	短期留学対応科目
国際理解学科選択必修Ⅰ群	国際理解と文化 (異文化理解論)	4			○	短期留学対応科目
国際コミュニケーション領域選択	異文化理解演習 (短期留学事前研修)	2		○		短期留学参加学生履修必須
	英語表現A	2			○	短期留学並行科目（非参加者には学部でクラスを開講する）、国際理解学科の短期留学参加学生履修必須
	英語表現B	2			○	
観光ビジネス・ 観光デザイン領域選択	英語表現C	4			○	短期留学対応科目（学部ではクラスは開かない）、国際観光学科の短期留学参加学生履修必須

(注) 網掛け部分が短期留学先での単位認定対象。

(6) 教職課程の履修について

国際理解学科には教職課程が設けられています。この課程を履修し、所定の単位を修得した人は「中学校教諭一種免許状（社会科もしくは英語科）」および「高等学校教諭一種免許状（公民科もしくは英語科）」の教員免許が取得できます。教員免許はあくまでも教職を志す人のためのものであり（実際の教員採用試験もなかなかの難関です）、課程履修登録者には様々なオリエンテーションや学習合宿、学外活動への参加の機会が提供されています。さらに、教員免許取得には「教科及び教科の指導法に関する科目」、「教育の基礎的理解に関する科目等」などを修得する必要があります。そのために卒業要件単位数（124単位）を超える単位を修得しなければなりません。したがって、安易な気持ちでは教職課程登録をしても継続が困難となりますので、十分に注意してください。

- ① 教職課程登録を希望する人は1年次より行われる説明会に参加し、適宜、その指示に従ってください。また、決められた科目を計画的に履修するように努めてください。
- ② 教職課程登録を行った人は所定の費用を納めてください。（別途、指示があります。）
- ③ 国際理解学科の学生の皆さんは「教科及び教科の指導法に関する科目」を共通教育科目（社会・公民科免許のための一部科目）のほか、自学科の専門教育科目から履修し、卒業要件単位に加えることができます。（ただし、各区分での上限があります。）
- ④ 国際観光学科の学生の皆さんも教職課程の履修登録ができますが、希望人数によっては何らかの「制限」を設ける場合があります。
- ⑤ 教職課程に登録した皆さんは3年次の介護等体験や4年次の教育実習など、学外での体験・実習活動に参加しなければなりません。また学習合宿や特別講座、学外活動など多様な学習支援を図っていますので、積極的に参加するよう心がけてください。

詳細は、本書の巻末「教職課程履修のてびき」および教職課程オリエンテーションでの説明を参照してください。

(7) 博物館学芸員課程の履修について

国際観光学科には博物館学芸員課程が設けられています。観光デザイン領域の専門科目を修得することで取得できます。（一部、他学科・他領域との並行科目があり、同一講座での授業となります。）科目は下記の24単位です。資格の取得手続きについては本書中の「国際学部・博物館学芸員課程に関する内規」を参照してください。

区分	科目名	単位	開講セメスター						備考
			1	2	3	4	5	6	
			1年次		2年次		3年次		
観光デザイン領域 選択科目	交流文化論 A*	2		○					資格取得希望者は24 単位必修 *は他学科・他領域との 並行科目
	交流文化論 B*	2			○				
	生涯学習論	2			○				
	文化政策論*	2			○				
	博物館展示論	2			○				
	博物館教育論	2			○				
	博物館資料保存論	2				○			
	美術史*	2				○			
	博物館情報・メディア論	2				○			
	アート・マネジメント論	2					○		
	博物館実習	4						○	

(8) 文化交流創成コーディネーター(略称：インターカルチュラル・コーディネーター)資格の取得

国際学部では、インターカルチュラル・コーディネーター資格要件に対応する科目を設置しています。本資格は、日本国際文化学会が認定する資格で、以下のカリキュラム・フレーム科目履修によるプログラム単位修得16単位に加えて、学会が主催する短期集中セミナーを受講することが望ましいとされています。短期集中セミナーへの参加が困難である場合は、間文化活動実践を積んでいることを記載した学習活動報告書を代わりに提出することができます。

インターカルチュラル・コーディネーターとは、現在までの様々な文化活動の独自性の継承と相互的文化交流による新たな文化の創成に携わり、そこに存する諸課題の把握とその解決に取り組む者と定義されています。日本と世界で多文化の共存する社会に貢献するグローバル人材として活躍することが期待されます。詳細については、オリエンテーションで説明します。

区分	科目名	単位	開講セメスター						国際学部における区分	必要 科目数
			1	2	3	4	5	6		
			1年次		2年次		3年次			
基礎科目	国際学入門	4	○						国際学部必修	2科目 以上
	国際学研究 A	2				○			国際学部選択必修	
	国際学研究 B	2				○				
	国際学研究 C	2				○				
	国際理解論	2		○					国際理解学科必修	
	国際観光論	2		○					国際観光学科必修	
専門科目	国際理解とコミュニケーション	2		○					国際理解学科選択必修	4科目 以上
	交流文化論 A	2		○					国際コミュニケーション領域選択	
	交流文化論 B	2			○					
	文化政策論	2			○					
	キリスト教文化と社会	2				○				
	環境コミュニケーション論	2				○				
	西洋思想と国際社会	2					○			
	日本ポップカルチャー論	2					○			
	インタープリテーション論 I (理論)	2						○		
	ジェンダーと国際社会	2						○		
	東洋思想と国際社会	2						○		
	開発教育論	2			○					

区分	科目名	単位	開講セメスター						国際学部における区分	必要 単位数
			1	2	3	4	5	6		
			1年次		2年次		3年次			
専門科目	NPO・ボランティアの理論	2			○				国際協力領域選択	4科目 以上
	国際協力論	2			○					
	平和学	2			○					
	観光と国際協力	2				○				
	ソーシャルビジネス論	2					○			
	農村社会開発論	2					○			
	国際観光とホスピタリティ	2				○			国際観光学科選択必修	
	国際観光とデザイン	2				○				
	観光マーケティング論	2			○				観光ビジネス領域選択	
	交流文化論A	2		○					観光デザイン領域選択	
	交流文化論B	2			○					
	文化政策論	2			○					
	NPO・ボランティアの理論	2			○					
	地域プロジェクト演習Ⅰ（理論）	2			○					
	博物館教育論	2			○					
	観光と国際協力	2				○				
	観光社会学	2				○				
	博物館情報・メディア論	2				○				
	インタープリテーション論Ⅰ（理論）	2					○			
	景観と風景のまちづくり	2					○			
地域開発とミュージアム	2					○				
エコツーリズム論	2					○				
観光資源論	2				○					
地域のサスティナブル・デザイン論	2						○			
間文化活動／フィールド・ワーク科目	ボランティア実地演習	2		○					国際学部選択必修	2科目 以上
	インタープリテーション論Ⅱ（応用演習）	2					○		国際コミュニケーション領域選択	
	国際協力実地演習	2				○			国際協力領域選択	
	観光ビジネスプロジェクト演習Ⅱ	2				○			観光ビジネス領域選択	
	専門インターンシップⅠ	2					○			
	専門インターンシップⅡ	2						○		
	専門インターンシップⅢ	2						○		
	専門インターンシップⅣ	2						○		
	地域プロジェクト演習Ⅱ（応用演習）	2				○			観光デザイン領域選択	
	地域調査演習	2					○			
	博物館実習	2						○		
	インタープリテーション論Ⅱ（応用演習）	2						○		
	専門インターンシップⅠ	2						○		
	専門インターンシップⅡ	2						○		
専門インターンシップⅢ	2						○			
専門インターンシップⅣ	2						○			

(9) 「ボランティア実地演習」について

学内外での多様なボランティア活動に対する単位認定を行うことを目的として、国際学部のカリキュラムでは「ボランティア実地演習」（第2 Semester 配当・2 単位）が設けられています。所定の条件や基準を満たした活動については、学部国際ボランティア委員会が所管し、単位認定を行います。詳細は同委員会が適宜催す説明会および本書中の規程編にある関連規程・内規を参照してください。

(10) 「インターンシップ」について

インターンシップは、学外の企業や機関で夏季休暇などの期間を利用して実習を行うもので、国際学部のカリキュラムでは「インターンシップ」（第4 Semester 配当・2 単位）が設けられています。所定の条件や基準を満たした活動については、学部インターンシップ委員会が所管し、単位認定を行います。詳細は同委員会が適宜催す説明会および本書中の規程編にある関連規程・内規を参照してください。

(11) 「専門インターンシップ」について

国際観光学科では上記「インターンシップ」とは別に、1か月以上の学外実習を前提とした「専門インターンシップ」をカリキュラムに組み込んでいます。上記「インターンシップ」が比較的短期（原則として2～3週間）であるのに対して、「専門インターンシップ」は企業との提携協力のもとに行う長期インターンシップで、最大で1 Semester 期間（第6 Semester 配当、最大16 単位）の実習を行い、単位認定の対象とするものです。「専門インターンシップ」に参加するためには相応の資格条件があり、また、「専門インターンシップ事前研修」の履修義務があります。（下記の表参照。）詳細は国際観光学科が適宜催す説明会および本書中の規程編にある関連規程・内規を参照してください。

区分	科目名	単位	開講Semester		備考
			5	6	
			3年次		
観光ビジネス領域・ 観光デザイン領域選択	専門インターンシップ事前研修	2	○		専門インターンシップ参加学生 履修必須
	専門インターンシップⅠ	4		○	内容・期間により4～16 単位 の範囲で単位認定する
	専門インターンシップⅡ	4		○	
	専門インターンシップⅢ	4		○	
	専門インターンシップⅣ	4		○	

10. その他

① 特定有資格者に対する履修免除について

各種検定試験の合格者（一部の検定試験については、一定の基準以上の成績を修得した者）は申請により関連科目の単位が認定されます。（本書の規程編「国際学部言語科目履修に関する特別措置取扱い要項」と別配布「時間割」を参照してください。）

② 他学部開講科目の履修について

国際学部の学生の皆さんは、本学他学部の授業科目を履修することができます。履修を希望する場合には、その科目が国際学部の学生に開講されているかどうか、時間割で事前に確認してください。なお、他学部開講の専門教育科目の修得単位は8 単位まで、自由認定枠の単位に加算されます。

③ 履修単位数の制限

1 学期に履修登録できる単位数は原則として 22 単位以内と定められています。ただし、編入学した学生の皆さんの1 年間に履修登録できる単位数は、春秋学期の合計で 50 単位以内となります。また、教職課程履修登録学生が履修する「各教科の指導法」、「教育の基礎的理解に関する科目等」についてはこの制限から除外されます。詳しくは本書の規程編「国際学部履修単位数制限規程」を参照してください。

④履修単位数制限の緩和

前学期の成績でAAおよびA評価を18単位以上修得した学生については、履修制限を緩和します。緩和の上限は4単位とし、26単位まで履修することができます。

⑤専門ゼミナール履修について

3年次春学期（第5セメスター）配当の「専門ゼミナールⅠ」を履修するには、卒業要件単位（「各教科の指導法」、「教育の基礎的理解に関する科目等」は含まない）を48単位以上修得していなければなりません（ただし、編入生は除きます）。また、専門ゼミナールには順序性がありますので「専門ゼミナールⅠ～Ⅳ」を履修できなかった場合、卒業が遅れることとなりますので、第1セメスターから計画的に履修してください。詳しくは本書の規程編「国際学部ゼミナール履修規程」を参照してください。

⑥勉学状況に伴う指導勧告について

勉学意欲が著しく低いと判断される学生（休学している学生は除く）に対しては、学部教務委員会が次の措置を取ります。

各セメスター期で修得した単位数が下記の基準に合致する場合には、当該の学生に勉学態度を改善するように警告を発するとともに、保証人にもその旨を連絡します。2セメスター連続で警告が発せられ、さらに次のセメスターでも下記の基準に合致する場合には、保証人および本人との面談のうえ、自主退学を勧告することがあります。

【「勉学意欲が著しく低い」との判断基準】

- ・ 第1セメスター期から第4セメスター期まで：各期でそれぞれ12単位未満
- ・ 第5セメスター期：通算44単位未満
- ・ 第6セメスター期：通算50単位未満
- ・ 第7セメスター期：通算56単位未満
- ・ 第8セメスター期：通算62単位未満